

田原本町第 5 次総合計画基本構想答申書（案）新旧対照表

項目	修正案（今回提示案）	現行案（素案）	備考（修正理由）
前文 （第 2・3 段落）	本年は、昭和 31 年 9 月 30 日に旧田原本町、多村、川東村、平野村、都村の 1 町 4 村が合併して現在の田原本町が誕生してから、70 周年を迎える歴史的な節目に当たります。先人たちが築き上げてきたこれまでの田原本の歩みと歴史を踏まえ、10 年先を見据える本計画の審議においては、委員一人ひとりが「We（私たち）」を主語に据え、基本構想を共に創り上げる「ワンチーム」として、極めて建設的かつ熱意ある議論を展開してきました。 その結果として、新たな将来像である『わたしが関わり、みんなで育む「ちよーどいい幸福田園都市・田原本」』を掲げるに至りました。	本審議会における審議は、単に事務局案を追認する場ではなく、委員一人ひとりが「We（私たち）」を主語に据え、基本構想を共に創り上げる「ワンチーム」として、極めて建設的かつ熱意ある議論を展開してきました。	①合併 70 周年の追記 （持田委員） 10 年先を見据える計画として歴史的背景の文言を追加。 ②将来像の文言追記 （持田委員） 答申書の前段に策定した将来像を明記。 ③不要な表現の削除 （持田委員・会長） 審議会は本来追認機関ではないため、該当箇所を削除。

記 第2項	将来像に掲げた「わたしが関わり、みんなで育む『ちょうどいい幸福田園都市・田原本』」を単なるスローガンに終わらせず、住民だけでなく、企業や行政も分け隔てなく等しく当事者として協働する関係づくりを構築すること。「行政にやってほしい」と要望する立場から一歩踏み出し、多様な主体が「自分たちのまちは自分たちで創る」という当事者意識を持つための契機とすること。	将来像に掲げた「わたしが関わり、みんなで育む『ちょうどいい幸福田園都市・田原本』」を単なるスローガンに終わらせず、住民一人ひとりが「行政にやってほしい」と要望する立場から、「自分たちのまちは自分たちで創る」という当事者意識を持つための契機とすること。	④主体の明確化 (清水委員) 「当事者意識」を持つ主体を住民に限定せず、企業や行政も等しく協働する関係づくりであることを明示。
---------------------	--	--	--